

論 文 要 旨

学籍番号	81734582	氏 名	中間 康介
論文題目： 政策分析のためのリファレンスモデルの構築			
<p>日本の政策決定のプロセスにおいて、「政策分析」が十分に実施されていないことが指摘されている。その原因として、数年で異動を繰り返す行政職員の人事体系上、過去の政策分析の経過や結果を後任に残していくインセンティブが低く、政策分析を行う際にリファレンスできるものが積み上がっていかないことが挙げられる。本研究では、政策分析のコストを下げるには、「過去の類似の研究・分析の参照を容易にする」ことが有効であると考え、行政職員の政策分析プロセスの視点にて参照データベースを設計し、「政策分析のためのリファレンスモデル」として提案する。</p> <p>本研究では、下記の流れで研究を行った。</p> <ol style="list-style-type: none">① 行政職員が政策分析を実施する際の行動モデルを構築することで、リファレンスモデルの要求を分析。② ①で得られた結果を基に、政策分析のリファレンスモデルのプロトタイプを作成。③ ②のモデルを実際に活用し、どの程度目的に応じた参照が可能で、実際に政策分析のコストが削減できるかを検証。 <p>結果として、下記の5つの結論が得られた。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 政策課題とそのソリューションの関係性を可視化することで、政策課題の全体像の把握が容易になり、参照すべき情報を見逃すケースや、不要な情報を参照してしまうケースを削減できる。(2) (1)において可視化した課題やソリューションに紐づく政策分析を参照できるようにすることで、参照までの時間および参照した分析内容を把握する時間を削減できる。(3) 政策分析において実施したシミュレーションのインプットとアウトプットを自然言語で可視化することで、行いたい分析に類似している分析を参照するまでの時間を削減できる。(4) 政策分析にて共通で参照されているデータベースを予めリスト化しておくことで、必要なデータを取得するための時間が削減できる。(5) 分析結果を、過去に実施された分析の中に位置づけて格納するフォーマットを用意することで、データやモデルの更新が容易になる。 <p>一方、当該リファレンスモデルを実際に運用するには、データベースを構築・更新・維持するために必要なコストが課題となる。今後は、その作業の自動化の手法（テキストマイニング等）を検討する必要がある。</p>			
キーワード（5語） 政策分析、リファレンスモデル、参照データベース、課題の構造化、シミュレーション			